八田ホームだより

悠々

2007.11.Vol.21

八田ホームでは100歳を越えられた方が３名いらっしゃいます。その中でも一番の最高齢である106歳の山本ソトさん(明治34年4月生まれ)に八田ホームのご長寿者代表でインタビューしてみました。

Q:明治時代の子供の頃の思い出は？

A:「男ばっかりの兄弟に女の子１人やったから大事に育ててもらった。着とったもんは着物に下駄やね。それと父親が赤いヒモを付けた草履をあんでくれたわ。うちの祖父やらほかの人らでもちょんまげみたいなん頭に結うとった。学校でノートの変わりに石板(せきばん)に字書いとった、白木(はくぼく)で。友達とはおじゃみで遊んだり、土に穴掘ってその中にガラスの玉みたいなもん投げて入れたりして遊んだ。」

Q:結婚したのはいつですか？

A:「結婚したんいくつの時やったかな、20歳かな？父親が手に職のある理窟な良い人を見つけてくれた。子供も何人も産んだ。そのうちの１人が戦争に行くことになって、お国の為やし仕方ないと送り出したわいね。」

Q:昔の八田町はどうでした？

A:「昔、八田中大火事になって燃えたことがある。自分の家はなんとか燃えずにすんだけど恐ろしかったよ。子供が戸の下敷きになって泣いとったん覚えとる。」

Q:八田ホームでの生活はどうですか？

A:「楽なこっちゃわいね。ごはんも出るし。ここでみんなと一緒に楽しく暮らしとる。社長さん(施設長)も顔見たら声かけてくれるし、大事にしてもろとる。職員さんも優しいし、不自由しとらん。幸せもんや。」

Q:106年の人生はどうでしたか？

A:「長いとも思うけど、あっという間にここまで来たような気がする。(また１年長生きするのは)欲なことは言わんおまけみたいなもんやしね。いつかお迎えが来るからね。」

Q:最後にこれからの次代を担う皆さんにメッセージを！

A:「私の祖父が慈悲深い人で“人に親切にすることは大事なことや”と言い聞かされたのを覚えとる。その祖父がもう一つ、背中におんぶされた子らみては“この子は日本の宝やぞ、大事にしんならんぞ”とよく言っとった。ほやから私も若い人ら見ては『日本の宝や』と思っとる。ま、今の人らも長生きするわいね。」

～インタビューを終えて一言～

１世紀もの人生を生きぬいてこられた山本さんの期待を裏切ることのないよう私達は頑張って今後の日本を支えていかなければならないのだなと感じさせられました。貴重なお話しを伺うことができて感謝しております。ありがとうございました。

八田ホームの医療

－20年間のメモ帳から－

嘱託医
高松　弘明

ホームの創立と同時に携わってから、20年がたってしまった。早いものである。

東さんら初代ナース３人と、診療室の整備にあけくれたのが、つい先ほどのようで、懐かしい。手元のメモも、随分厚くなった。20年という歳月もひとつの歴史かなあと思う。特別養護老人ホーム（特養）八田ホームでの医療がどうだったのか、この際、印象にのこっている一部を書き移しすることにした。気軽に目を通していただければ幸いである。

・ジャングルに迷い込む；35年近く、一般医学を経験してきた私にとっては、ホームでの診療は、まさしくジャングルへの迷い込みであった。本人の訴えを聞いて詳しく病歴をとり、それから診療をするという第一歩がとれない。認知症の人にこれほど多く接した経験がなかったのである。しゃべらない、しゃべれない人の医療がめちゃくちゃ難しいものだとはじめてわかり、改めて、医学部一年生のように視診、聴診、打診、触診の基礎から勉強しなおす始末であった。入居者の変化、顔色、しぐさをしっかり観察しようと、研修会でくりかえし話したのは、実は、自分にたいする言い聞かせでもあったのである。

・高齢者はどこからが病気なのか；難点の一つは、心身上、どこまでが加齢現象で、どこからが病気なのかの判断である。年数を経た今でも苦しんでいるが、はっきり教えてくれる教科書があるわけではない。

・特養医療は特攻精神；政府の医療費、福祉費抑制策で、最も影響の大きいのは、人員であろう。病院ではないからといって、夜間当直のない看護師が３人とは、病気のデパートのような場所でいかにも少ない。夜間自宅待機で、しょっちゅう呼び出されているのは過労業務である。

・病気の宝庫；病気でもないし自宅へも帰れない人のための特養というのが、行政のふれこみだが、実際は、重症の病気の宝庫である。最近はとくにその傾向が強い。

・病院との連携；認知症の病院の受け入れは、当初からきわめて悪かった。搬送先の病院看護師に嫌みたっぷりいわれて、当ホームの看護師が泣いて帰ってきた事があった。病院の医師と、電話でやりあったこともある。最近は雰囲気は随分よくなったが。そのなかで、J病院は当初から認知症患者さんの対応が非常によく、感謝、感謝である。病院のスタッフとは、何回か懇談の機会を持たせてもらっている。救急搬送できないときも、緊急往診に応じてくれるので大変ありがたい。

・研修会議；創立以来、月一回の会議で、かかさず医学中心ワンポイントレッスンを続けてきた。職員の知識欲が、長年続けられた一番の理由である。

・職員のレベルが高い；看護師を含めた職員のレベルが非常に高くなってきた。

・最後のみとり；死亡場所をホームにしたくない家族が、過去に多かったが、数年前からホームでの看取り希望が増えてきた。こちらの責任も大きくなっている。

・病気の種類；近年目立つのは胃腸瘻、インスリン糖尿病で、今後、ますますふえるのは間違いないので、これからの重要課題である。

・延命治療；むりな延命治療はおこなっていないが、家族との意志の疎通が一層重要である。

・車椅子；車椅子使用が80％と増えているのが気になっている。

・大学病院への死後献体が５人；心から敬意を表したい。

以上、メモ帳からいくつかの項目を拾い出してみた。特養の医療は、医師だけではダメで、職員全部の協力がなければなりたたないのである。ホームの職員の方々に心からお礼申し上げたい。

高松Drを囲んで「八田ホームの医療について考える会」

医務室スタッフ

9月6日(木)開催 13:00~14:30
ご家族、職員あわせて29名に参加いただきました

高松先生が八田ホームでの20年間の医療を振り返り、高齢者に多い疾患の特徴やホームでの治療方針についてスライドなども使用しながら分かりやすく説明していただきました。また、介護、訓練、栄養の各担当者からは、日頃からの医務室との連携の様子について報告も行われました。参加されたご家族の方からは、「日頃から聞きたいことがたくさん聞けてよかった」、「病気のことが良く分かり安心しました」など感想を伺っております。今後もご家族・職員が共に学ぶ勉強会を開催したいと考えています。

1Fユニットのようす

ホームの食事では、地物加賀野菜の金時草やつる豆などの食材を積極的にとり入れています。その中でも葉を取ったり、筋を取ったりを利用者の方に手伝って頂いています。皆さん熟練された手つきであっという間に終了してしまいます。又今年も兼六園から青梅をいただき、早速へたを取り、梅シロップ作りをしました。敬老のお祝いでは梅ジュースで乾杯をしました。

2Fユニットのようす

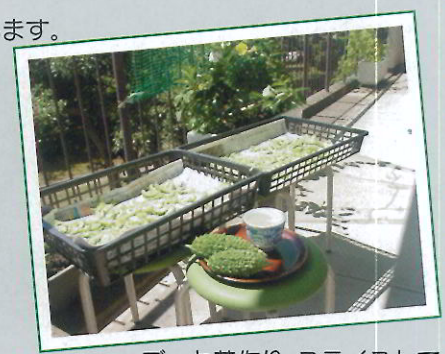
今年の夏ベランダにゴーヤを植えました。8月に入ると、赤ちゃんゴーヤが実をつけ利用者の方が真っ先にみつけてくれました。暑い日の午後、ユニットでゴーヤ茶を作って皆でいただきました。「なにこれ、苦い！！」という声もありましたが、「身体にいいよ~」と聞くと、皆さん残さずに飲み干していました。おかげで利用者の方をはじめ、職員も夏バテ知らず！？6~9月末まで3ヶ月余り、「日除け、観賞、グルメ、話題作り」と楽しませていただきました。

ユニット紹介

緑が鮮やか！
ゴーヤが実をつけています。

梅シロップ漬け
おいしくできるといいね。

収穫しました。



ゴーヤ茶作り、スライスして
天日干しにします。

いい顔 コミュニケーション

兼六園お花見会

残念なことに
バスの中か
なりま

帰りにホテルに寄って
ティータイム。
「花見団子もいいけど
ケーキもおいしいね！

ボランティアの皆さま
による舞踊ショー。
優雅な姿に見とれて
しまいました。

盆踊り大会

「私もみんなと一緒に踊ったよ！」

迫力ある和太鼓の演奏と
ハーモニカとウクレレの音色が
心にしみわたりました。

当日は雨天、
らお花見と
した。

「仮装もしたよ！似合っとる？」

外出イベント

北部公園へ
散策してきました。

千里浜海岸まで
ドライブにお出掛け。

まだ咲き始めたばかりの
菖蒲園にて。

日帰り旅行

「楽しかったね！」

七尾の海を眺めながら
足湯につかりました。
「ことことになるわ～」

「どれもおいしいわ」

地元の能登の海の幸や
加賀野菜をふんだんに
使った豪華な懐石料理！

「踊りまで見せてもらって
最高やわ～」

湖陽苑だより

マシーン導入

湖陽苑では4月から、マシーンを使った運動を行なっています。最初は戸惑っていた利用者の方も回を重ねる毎に、マシーンに乗る事を楽しみにされている様です。いつまでも若々しく健康で過ごして頂けるよう少しでもお役に立てれば幸いです。

バイキングの様子

おいしいメニューが増えました。

6月からは昼食も少し変わりました。月に一度、バイキングを実施しています。大皿に盛られたおかずを自分で取って食べられたりと、普段の昼食とは違った雰囲気で、皆さんに毎回大変喜んで頂いています。また、誕生会にはお祝いとして、松花堂弁当をお出ししています。皆さんお赤飯が大好きで「おいしい、おいしい」と食べておいでます。「毎回来たいわー」との声が続いています。

お誕生者の祝い膳

湖陽苑敬老会

9月15日(土)、敬老会が開かれました。
当日は天候にも恵まれ、利用者と、また、地域の方も大勢が出席されました。昼食に祝い膳と少しお酒もいただき、皆さん、話にも花が咲いておいでました。午後からは地域の大場潟乃太鼓の方々が素晴らしい響を聞かせて下さいました。心に響いて涙を浮かべている方もおいでました。

バス旅行に行って来ました。

10月9日、ご利用者の方々22名、大畑施設長、職員6名の計29名でバス旅行に行ってきました。キリンビール工場では、ビールやジュースを試飲出来、皆さん大喜びでした。天気にも恵まれ、美しい鶴来の山々を見ながら、車中ではカラオケや話に盛り上がり、そして、かんぽの郷では、旬の食材がふんだんに使われた食事をおいしく頂きました。

居宅介護支援センター だより

石川県八田ホーム居宅介護支援センター

―私たち介護支援専門員の日常の活動―

介護支援専門員は、在宅で生活される高齢者と家族が日頃から感じておられる困り事や問題解消のため相談や援助業務を行っています。今回は、地元の利用者（家族）から相談を受け、本人や家族等と共に考え、本人の自立に向けて取り組んだ内容をご紹介致します。

◎本人や家族の相談内容

夜間寝室からトイレの移動時に家族の付き添いを要する状態であるとお聞きする。夜間の移動はかなり不安定であり、深夜３回の付き添いが家族の負担を大きくしていた様子で、入浴は浴槽に入れずシャワーのみを実施されていた。後日、介護支援専門員と市団体職員（作業療法士）、福祉用具業者が連携して自宅訪問を行って援助を検討しました。

◎具体的な支援内容

移動用具をより安定した歩行器に選定、寝室をトイレ近くに換え移動距離短縮をしました。ベットサイドに簡易手すりを設置、住宅改修で浴室手すり設置位置の検討を行いました。

◎支援による効果

夜間の起き上がりや移動が自立し、深夜の付き添いの不必要になり、浴槽に入れるような浴室の手すり設置位置を決定することができました。本人の自信が回復し、外出意欲も出始めてきてとのことで、本人及び家族は、大変に喜ばれておりました。

―何かお困りのことがありましたらお気軽に声をかけてください。―

地域サロン紹介

才田町地域サロン参加

7月26日（木）才田町多目的センターで開催されました地域サロンへ高田介護長、田中管理栄養士が出席し地域の皆様と交流を深めました。

田中管理栄養士が「栄養と夏バテ予防」をテーマに講師を務め、イラストなどを用いて、身近な夏野菜の豆知識、調理のポイントなど楽しくお話しました。

講師：田中ゆみ子

基本理念

八田ホームは、
入居者の意志及び人格の尊重と自立支援を図り、
利用者や家族及び地域の人達から
信頼される施設の運営を目指します。

基本方針

- グループケアにより明るく家庭的な施設づくりに努めます。
- ケアプランによる一人ひとりを大切にした介護に努めます。
- 地域との連携を深め、ノーマライゼーション社会の推進に努めます。

感謝録 (H18.11～H19.10)

(順不同・敬称略)

ボランティア(八田ホーム　湖陽苑)

MOA橋ネットワーク	宮野美近社中	大崎　文子
WFWP石川	森本小学校4年2組	羽柴　尚典
高砂ボランティア会	ヤス&トモ&静	扇　恵子
ひまわりグループ	照洲会	森口　麻美
なかよし会	晴節会	森多　幸夫
大場潟乃太鼓	八田保育所	鈴木　孝夫
八田町女性部	薬師谷保育所	横川　捷信
はまなす舞踊会	広岡保育所	西条　康夫
NTT北陸民謡民舞サークル	コスモスの会	永田外志子
しらゆりヘルパー友の会	プーの会	中田　外治
八田町老寿会	木村　稔	坂本　登

ご寄付・ご寄贈　ご厚意ありがとうございました。

石川県金沢城・兼六園管理事務所	山田　都	戸井　歳雄
日本たばこ産業(株)	馬場　宝一	小林　正治
伊藤忠商事(株)金沢支店	杉田　喜稔	崎田喜代子
いしかわ介護ボランティアセンター	中村　邦子	殿畑　春枝
(特)ボランティアサービス石川	北村　直彦	大木　昭代
竹林商店	畝林　正樹	高木寿美枝
今川　良弘	能田　清美	竹野　澄子
酒井　茂	岡本　清	
高橋　幸夫	金子　トキ	

八田ホームの制服がリニューアルしました

介護職員の制服が変りました。
(9月15日より)
20年間親しまれましたピンクのエプロンドレスに代わり、女性職員(ピンク)、男性職員(薄緑)の上着とベージュのパンツのさわやかユニホームです。
よろしくお願いいたします。

よりよいサービスを提供するために ご意見(苦情)をお聞かせください

■施設の苦情解決体制　(H19年10月より第三者委員が変更になりました)

施　設　名	第三者委員	苦情解決責任者	苦情受付担当者
特別養護老人ホーム石川県八田ホーム	酒井　玉吉 076-285-1802 小蒿　邦昭 076-288-4542	施設長 大畑　英茂	生活相談員　末松　良浩
金沢市短期入所施設湖陽ホーム			
金沢市デイサービスセンター湖陽苑			主任生活相談員　宮下　久美子
石川県八田ホーム居宅介護支援センター			主任介護支援専門員　蓮沼　千恵

編集後記

今年の夏は記録的な猛暑でしたが、十一月ともなるとさすがに暖房が恋しい季節となりました。八田ホームも皆様に支えられながら、おかげさまで開所二十二年目を迎えています。

今回のホームだよりでは、最年長で百六歳の山本ソトさんから明治から大正時代にかけてのお話しを伺いました。チョンマゲの話題も出て、若い？編集委員もおもわずびっくりいたしました。明治・大正・昭和・平成と時代はかわっても、「子供は宝」「お年寄を敬う」ことは変えてはならない大切な価値観だと改めて感じました。

発行所

社会福祉法人　石川県社会福祉事業団

特別養護老人ホーム　石川県八田ホーム
金沢市短期入所施設湖陽ホーム
〒920-3104　石川県金沢市八田町東912番地
TEL (076)257-2333／FAX (076)257-2348

金沢市デイサービスセンター湖陽苑
石川県八田ホーム居宅介護支援センター
TEL (076)257-7353／FAX (076)257-7354